

＜第5回＞ 担任の先生に聞く、小学生の防犯に関する意識調査

一斉休校や外出自粛の「今こそ、おうちで」防犯学習を

～休校の長期化により、今年度は学校での防犯学習機会が減少する可能性あり～

児童の13人に1人は、「留守番中に不審な人が訪ねて来たことがある」

高学年児童の30人に1人は、インターネットを介したトラブルの経験あり

ALSOK（本社：東京都港区、社長：青山幸恭）は、2004年から社会貢献活動として取り組んでいる出前授業「ALSOKあんしん教室」を実施したクラスの担任教諭を対象に、小学生の防犯や生活に関する記入式アンケート調査を実施し、「第5回 担任の先生に聞く、小学生の防犯に関する意識調査」として、以下の通りにまとめました。

- 調査期間： 2019年4月12日から2020年2月27日まで
 調査対象： 「ALSOKあんしん教室」を実施した全国の小学校のクラス担任教諭
 調査方法： アンケート用紙に記入していただいたものを、ALSOKにて集計
 回答者数： 634人（担当児童数合計：16,911人）

トピックス

児童・保護者・先生の防犯意識

- 学区内の治安を「変わらない」と感じる先生が約6割。一方で、約3割の先生が防犯教育をしてほしいという**保護者からの要望の高まりを感じている**
 →今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴う休校長期化の影響で防犯授業の機会が減少か「STAY HOME週間」中、おうちでの防犯教育におすすめ“ALSOK「ぼうはんかるた」”
- 児童の防犯ブザー所持率は減少、GPS通信端末の所持者がいるクラスはやや増加

児童の危険発生状況

- 「登下校中などに怖い目に遭ったことがある」という児童の割合は「45人に1人」
時期は「1学期」が最多 →最多危険発生場所は「通学路」、最多発生時間は「下校中」
- 留守番経験者のうち「留守番中に不審な人が訪ねてきたことがある」児童の割合は「13人に1人」と**前回より増加** →留守番前に決めておきたい防犯の約束事を「お留守番約束シート」で確認

インターネットのリスクに関する教育と危険発生状況

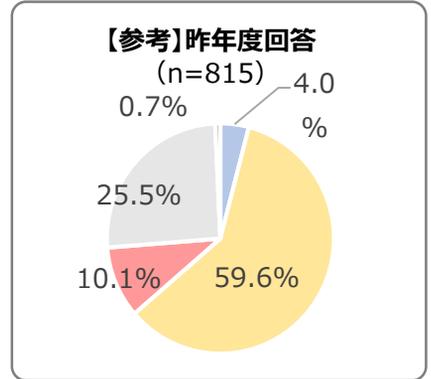
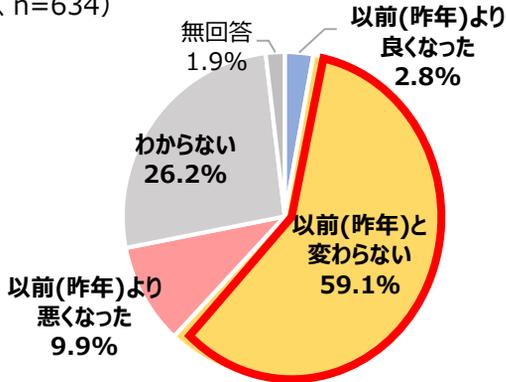
- 8割以上の先生が、以前(昨年)よりインターネットのリスク教育の必要性を感じている
- インターネット上でのトラブル経験のある児童は、**高学年で「約30人に1人」**
 →最も多いトラブルは「ネットいじめ」。「勝手な課金」「面会の要求」「自撮り要求」の事例も
 【参考】書き込む前の確認事項「かきくけこ」、警戒が必要なメッセージ「あくまがでた」で覚えよう！

**学区内の治安を「以前(昨年)と変わらない」と感じている先生は約6割。
約3割の先生が、防犯教育をしてほしいという保護者からの要望の高まりを感じている**

クラス担任の先生に、学校周辺区域の治安についてどのように感じているか聞いたところ、約6割(59.1%)の先生が、以前(昨年)と比べて「変わらない」と回答しました。一方、「以前(昨年)より悪くなった」と感じている先生(9.9%)は、「良くなった(2.8%)」と感じている先生よりも多いことがわかりました。

Q. 以前(昨年)と比較して、学区内の治安についてどのように感じますか？

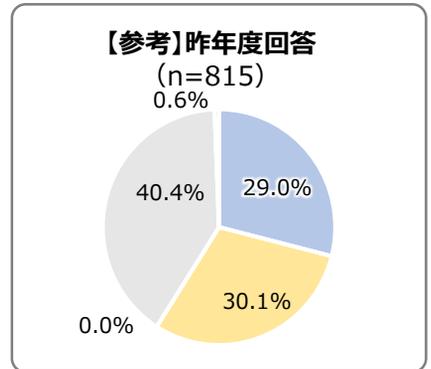
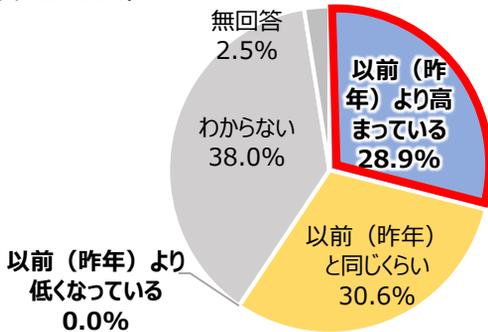
(単数回答、n=634)



児童の保護者からの防犯授業に関する要望が変化しているかどうかを聞いたところ、約3割(28.9%)の先生が、以前(昨年)よりも要望が高まっていると感じていることがわかりました。一方、「低くなっている」と回答した先生は一人もいませんでした。

Q. 以前(昨年)と比較して、児童の防犯意識を高めるような授業をしてほしいという保護者からの要望は高まっていますか？

(単数回答、n=634)

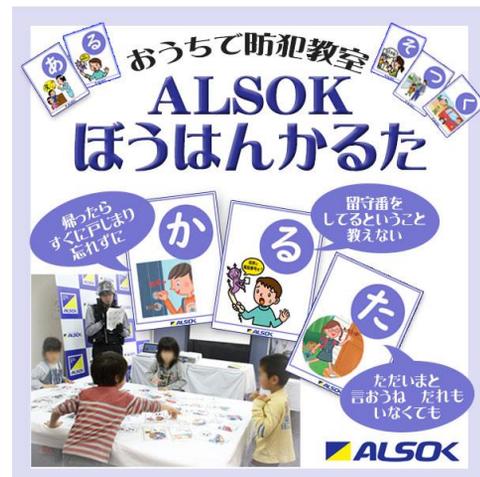


**今年は新型コロナウイルスの影響で防犯授業が減少？
家庭での防犯学習におすすめ ALSOK「ぼうはんかるた」**

休校の長期化により、各学校では今年度のカリキュラムや学校行事などの見直しが行われています。授業時間の確保が難しい中、例年、防犯授業に充てていた時間を削らざるを得ない学校もあるようです。

このような状況下でも児童が防犯について学べる機会を得られるように、ALSOKは、おうちで楽しみながら防犯学習ができる教材、ALSOK「ぼうはんかるた」の印刷データをホームページ上で無償提供しています。

https://www.alsok.co.jp/company/news/news_details.htm?cat=2&id2=1023



防犯ブザーの所持率は、学年が上がるとともに「減少」

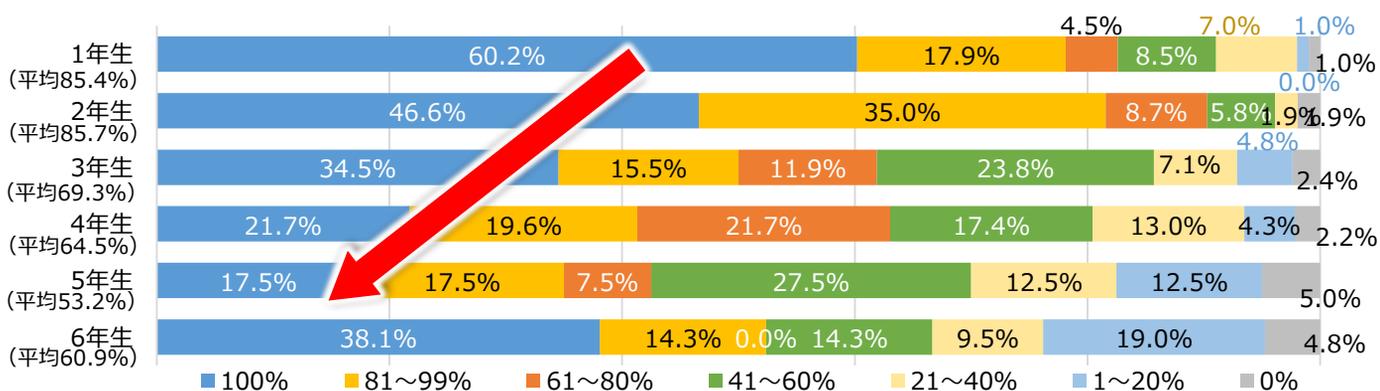
防犯ブザーの所持率について学年別に尋ねたところ、1年生では約2/3のクラスで全児童が防犯ブザーを持っていましたが、4年生以上に進級すると、100%所持率は1/5程度まで減少しており、学年が上がるとともに所持率が減少する傾向が見られました。

警察庁の統計によると、「誘拐」や「強制わいせつ」は、小学生より中学生のほうが同一人口当たりの認知件数が多くなっており、**学年が上がるほど被害に遭う確率は高まると言えます。学年の高低に関わらず、防犯ブザーを所持させることが大切です。**

子供に危害を加えようとする人物は、ほかの大人に発見されることを嫌います。大きな音を出す防犯ブザーは、子供でも手をけん制できる上に、見えやすい場所に装着することで被害抑止効果が期待できます。自治体によっては小学校入学時に全児童へ防犯ブザーを配布していますが、日常生活を送る中で風雨や衝撃をうけて壊れてしまうことも少なくないようです。**学校が再開される前に、防犯ブザーが壊れたり音が小さくなったりしていないか確認しておきましょう。**

Q. 現在担当しているクラスの児童の、防犯ブザー所持率はどれくらいですか？

(数値記述式 有効回答数 1年生201、2年生103、3年生84、4年生46、5年生40、6年生21 ※未回答除く)

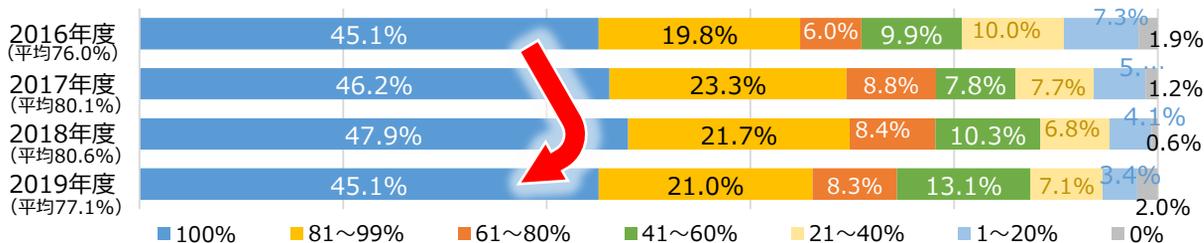


調査開始以降、増加傾向にあった防犯ブザー所持率は「微減」

GPS付き携帯端末を所持する児童がいるクラスは「増加」

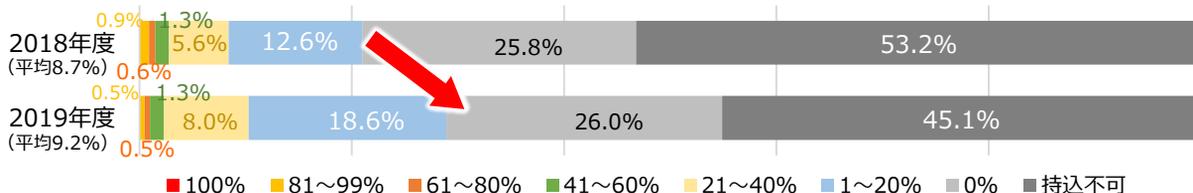
過去の調査では児童の防犯ブザー所持率が増加傾向にありましたが、今年度はわずかに減る結果となりました。昨年度より調査を開始したGPS付き携帯端末所持率は、所持する児童がいるクラスが増加している状況が確認できました。

過去4年間における防犯ブザー所持率の推移（全学年）



Q. 現在担当しているクラスの児童の、GPS付き携帯端末の所持率はどれくらいですか？

(数値記述式 有効回答数 2018年度462、2019年度377 ※未回答除く。平均値は持込不可クラスを除いて算出。)



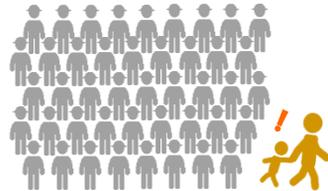
登下校中・外出中に危険な目に遭ったことのある児童の有無とその人数を尋ねたところ、約45人に1人（2.2%）の割合でいることがわかりました。

登下校中などに怖い目に遭ったことのある児童の割合は、**約45人に1人**

登下校中・外出中に怖い目に遭ったことのある児童

237人 / 10,796人 = 約45人に1人
 (全体の約2.2%)

「Q. 現在担当しているクラスに、登下校中や外出中に声かけや連れ去り未遂、暴行、強制わいせつなどの危険な目に遭った経験のある児童は何人いますか？（有効回答教員数418人、担当児童数10,796人）」を基に算出。被害経験の有無について「不明」と答えた先生216名が担当する児童（6,115人）は母数より除外。



Q. 児童はどのような目に遭いましたか？

(複数回答 ※未回答を除く)

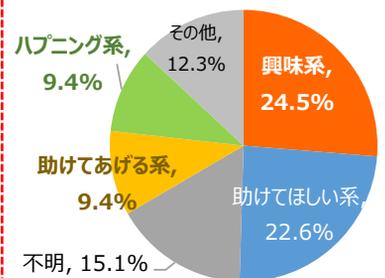
しつこく話しかけられた、つきまとわれた（連れ去り目的以外）	45.0% (103)
声掛けによりどこかへ連れていかれそうになった	21.4% (49)
強引に手を引かれるなど無理やり連れていかれそうになった	2.6% (6)
脅迫、暴力行為を受けた	2.6% (6)
痴漢、わいせつ行為を受けた	2.2% (5)
その他	26.2% (60)

※「その他」の例

「写真を撮られた（撮られそうになった）」×25
 「鎌を待った人ににらまれた」×1 「車で荷物を送ってもらった」×1
 「お菓子あげると言われた」×1 「名前を聞かれた」×1

Q. 児童はどのような誘い文句で声を掛けられましたか？

(複数回答)



※「その他」の例
 「率直に『家に来る？』と言われた」、等

ALSOKでは、犯行の際によく使われるとされる誘い文句のパターンを、「興味系」、「ハプニング系」、「親切系」、「困惑系」の4つに分類し、注意を呼び掛けています。いざという時に対応できるよう、できるだけ多くの事例を児童に示して、自分だったらどうすればよいかを考えさせる訓練を、学校や家庭で日頃から行うようにしましょう。

興味系

「ペットを見せてあげる」、「タレントにならない？」など、子供の興味や好奇心をそそる手口

助けてほしい系

「迷子の犬を一緒に探して」、「駅まで案内して」など、子供の親切心につけこむ手口

助けてあげる系

「雨が降ってきたので家まで送ってあげる」など、子供が困っているところにつけこむ手口

ハプニング系

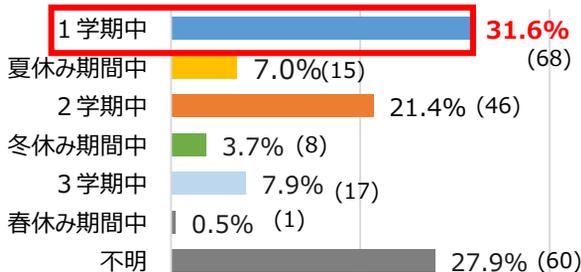
「お母さんが病院に運ばれたから、一緒に行こう」など、子供を動揺させて平常心を奪う手口

児童が最も多く怖い目に遭っている学期は「1学期」 「下校中」、「通学路」で遭遇したケースがそれぞれ「約半数」

被害に遭った時期については、新学期シーズンにあたる「1学期中」（31.6%）が最も多い結果となりました。時間帯別に見ると、「下校中」（49.0%）が最多で、「外出中（日没前）」（35.1%）もこれに次いで多くなっています。

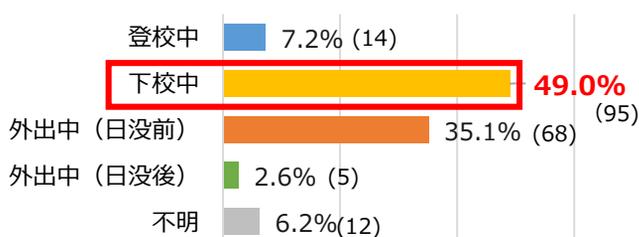
Q. 児童は、いつごろ被害に遭いましたか？

（複数回答 ※未回答除く）



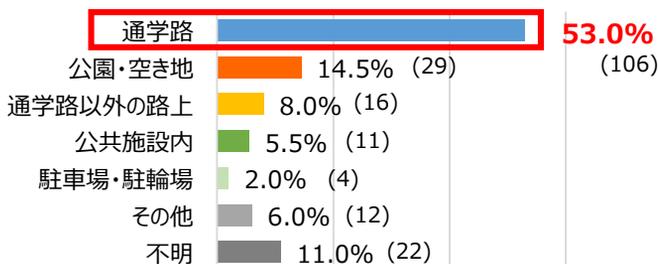
Q. 児童は、どの時間帯に被害に遭いましたか？

（複数回答 ※未回答除く）



Q. 児童は、どこで被害に遭いましたか？

（複数回答 ※未回答除く）



ALSOKからのアドバイス

子供だけで外で遊びに行く際には、「なるべく一人では行動しない」、「日没前には帰宅する」、「危険な場所（※）には近づかない」といった約束を、改めてしておきましょう。

特に、新型コロナウイルス感染防止のために外出自粛が求められている現在は、子供を見守る地域の目も少なくなりがちですので一層注意が必要といえるでしょう。

※「危険な場所」とは

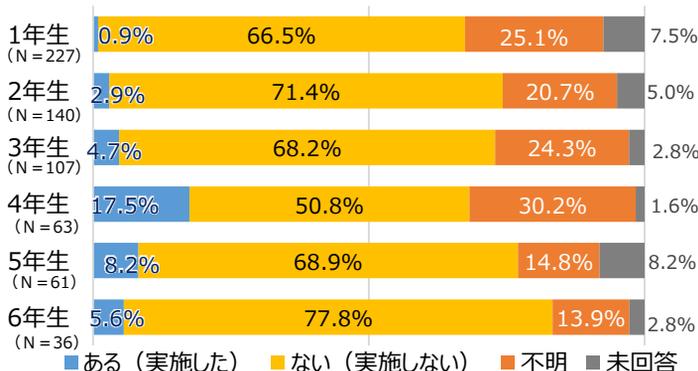
人の視線が少なく死角が多い道路や公園など「まわりから見えにくい」かつ「誰もが入りやすい」場所は、怪しまれることなく標的に近づくことができ、犯行を目撃されるリスクも少ない、犯行者にとって都合のよい場所になります。日が落ちて暗くなるにつれて「見えにくい場所」は増えますので、子どもには日没前に帰宅するよう約束させましょう。また、駐車場は、車にひかれるリスクに加え、車内に潜んでいた犯行者に連れ込まれてしまう恐れもありますので、子供だけで近づかないように約束しておきましょう。

身近にある危険な場所や緊急避難場所などを実際に確認しつつ、その場の景色や状況から「犯罪の危険を予測する能力」を養うことを目的とした、「地域安全マップづくり」と呼ばれる授業があります。

この「地域安全マップづくり」の授業を実施する予定があるかどうかを質問したところ、右のグラフのような結果となりました。どの学年で実施するのかは各学校によって方針が異なると考えられますが、実施することが難しい学校も少なくないようです。

各家庭において、「地域安全マップづくり」の授業にかかわる通学路の安全確認と防犯指導をしておくことが望ましいでしょう。

Q. 担当のクラスで、防犯学習として「地域安全マップづくり」の授業を行う予定はありますか？



留守番中に不審な訪問者がたずねて来たことのある児童は、「13人に1人」 前回調査（約20人に1人）に比べて増加

アンケートに回答した先生の担当クラスにいる留守番経験のある児童3,292人のうち、留守番中に見知らぬ人が家に訪ねてきたことがある児童は13人に1人の割合であり、**前回調査（約20人に1人）と比べて増加していました。**

警察庁の統計によると、子供が被害に遭遇した略取・誘拐や強制わいせつの発生場所は、「路上（約4割）」に次いで「住宅（約2～3割）」が多く、業者等を装って犯行に及ぶ手口はその典型例となっています。

これらの児童の家に来た訪問者の全てが悪意を持った訪問者であったとは言えませんが、誤った対応をして被害に遭うことを防ぐためにも、訪問者が来たときのルールをあらかじめ決めておくことが大切です。

留守番経験者のうち、不審な訪問者が訪ねてきたことのある児童

255人 / 3,292人 = 13人に1人 (全体の約7.7%)

「Q. 現在担当しているクラスに、ひとりで留守番したことのある児童は何人いますか?」、「Q. 留守番中に不審な訪問者が来たことのある児童は何人いますか?」を基に算出（回答教員数203人、合計担当児童数5,203人のうち、留守番経験のある担当児童数は3,292人）。



留守番前に親子で決めておきたい防犯・防災の約束事 ～「留守番約束シート」で確認を～

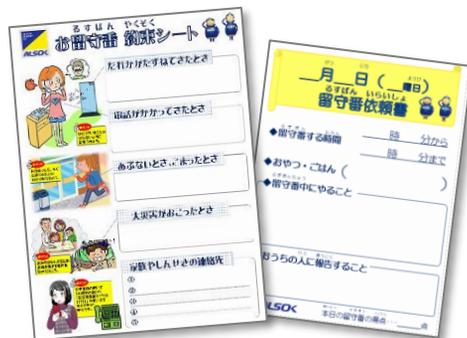
新型コロナウイルス感染拡大に伴う休校の期間中、子供に留守番を任せている家庭も多いと思われます。そのような中で、児童が留守番している家に泥棒が侵入し、鉢合わせとなった事例が相次いで報告されています。

休校で子供だけで留守番している家が多いと広く認識されている現在は、「洗濯物などから子供が暮らす家だと悟られないようにする」、「窓ガラスに防犯フィルムを貼ったり、防犯カメラを設置する」といった対策も一層重要といえるでしょう。また、留守番中の防犯に関することや、緊急時の対処方法などについて話し合いが不十分だと、子供の身に危険が及んだり、必要以上にトラブルが拡大してしまうことにつながりかねません。自宅の防犯設備や子供の成長段階に応じて、「我が家の留守番ルール」を決めておくのがよいでしょう。

最低限決めておきたい留守番時の約束事

- ・全ての窓や扉のカギを必ずしめておく
- ・訪問者が来たらどうするか
- ・電話がかかってきたらどうするか
- ・トラブル発生時はどこに駆け込むか
- ・大災害発生時はどこに避難するか
- ・家族や親せきの電話番号をメモしておく

なお、ALSOKでは、左の約束事を記入して掲示しておくための「**お留守番約束シート**」と、留守番を任せるその日ごとの伝言メモや帰宅後のコミュニケーションに活用できる「**留守番依頼書**」の2つの用紙のテンプレートを、ホームページ上で公開しています。



また、学校や外出先から家に帰るとき（留守番する前）から気をつけておくべきポイントがあります。ALSOKでは、この約束を「いいゆだな」という覚え言葉にして児童に教えています。

外出先から帰って留守番をはじめる前の約束 「いいゆだな」

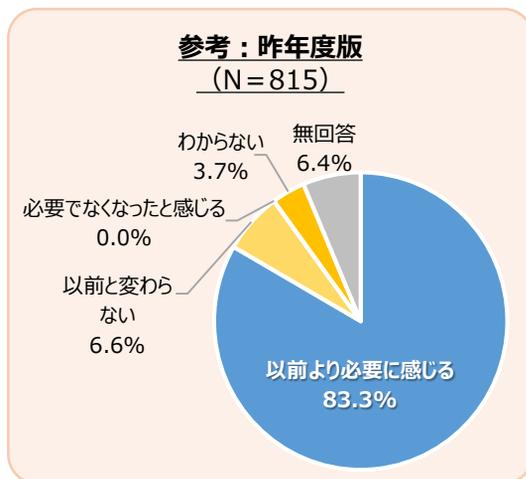
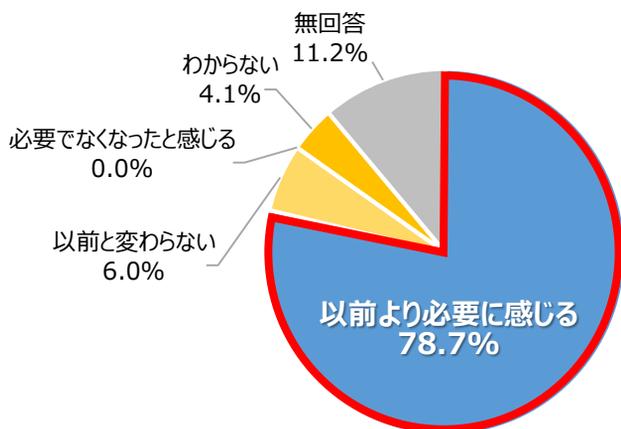
- い** 家のカギを見せない（これから留守番をすることが悪い人にわかってしまうから）
- い** 家の周りをよく見る（悪い人が後ろにいたり隠れていた場合に、押し入りされることを防ぐため）
- ゆ** 郵便受けをチェック（郵便物があふれていると、留守だと思った空き巣に入られるかもしれないため）
- だ** 誰もいなくても「ただいま」と言う（家の中に誰がいるんだなと思わせるため）
- な** 中に入ってすぐ戸締り（悪い人が家の中に入ってくるのを防ぐため）

約 8 割の先生が、以前(昨年)よりインターネットのリスク教育の必要性を感じており、指導実施クラスの比率はほとんどの学年で昨年度を上回る

インターネットのリスクについて、以前（昨年）より教育が必要と感じるかどうかを聞いたところ、約 8 割(78.7%)の先生が、「以前より必要に感じる」と回答しました。担当するクラスで実際にインターネットのリスク教育をしているかどうかについては、前回同様に学年が大きいほど指導をしているというクラスの割合が高い傾向が見られるとともに、指導すると回答したクラスの比率が、6年生を除く5つの学年で昨年度を上回りました。

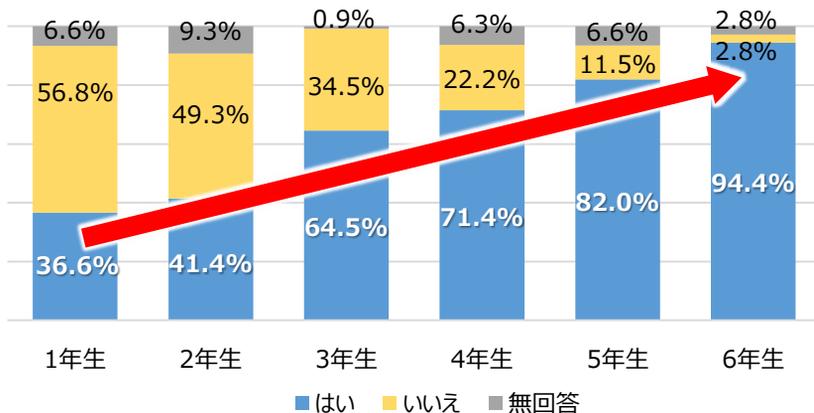
Q. 以前（昨年）と比較して、現在のほうがインターネットに関するリスクについての教育が必要だと感じますか？

(単数回答 n=634)

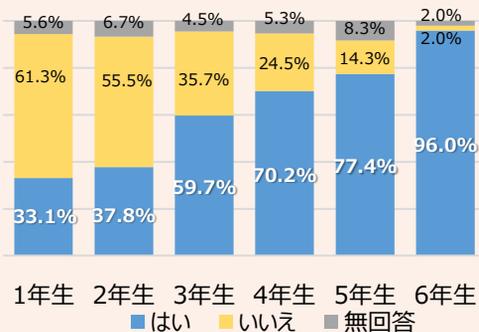


Q. インターネットに関するリスクについて、担当しているクラスの児童に指導することはありますか？（予定含む）

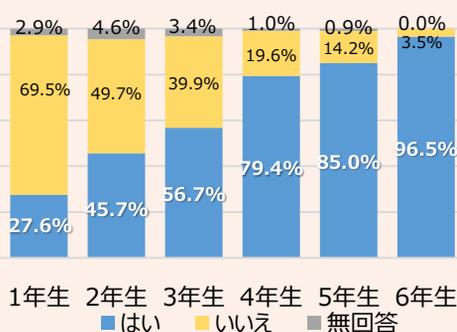
(単数回答 n=1年生227、2年生140、3年生107、4年生63、5年生61、6年生36)



参考：2018年度 (単数回答 n=815)



参考：2017年度 (単数回答 n=1,025)

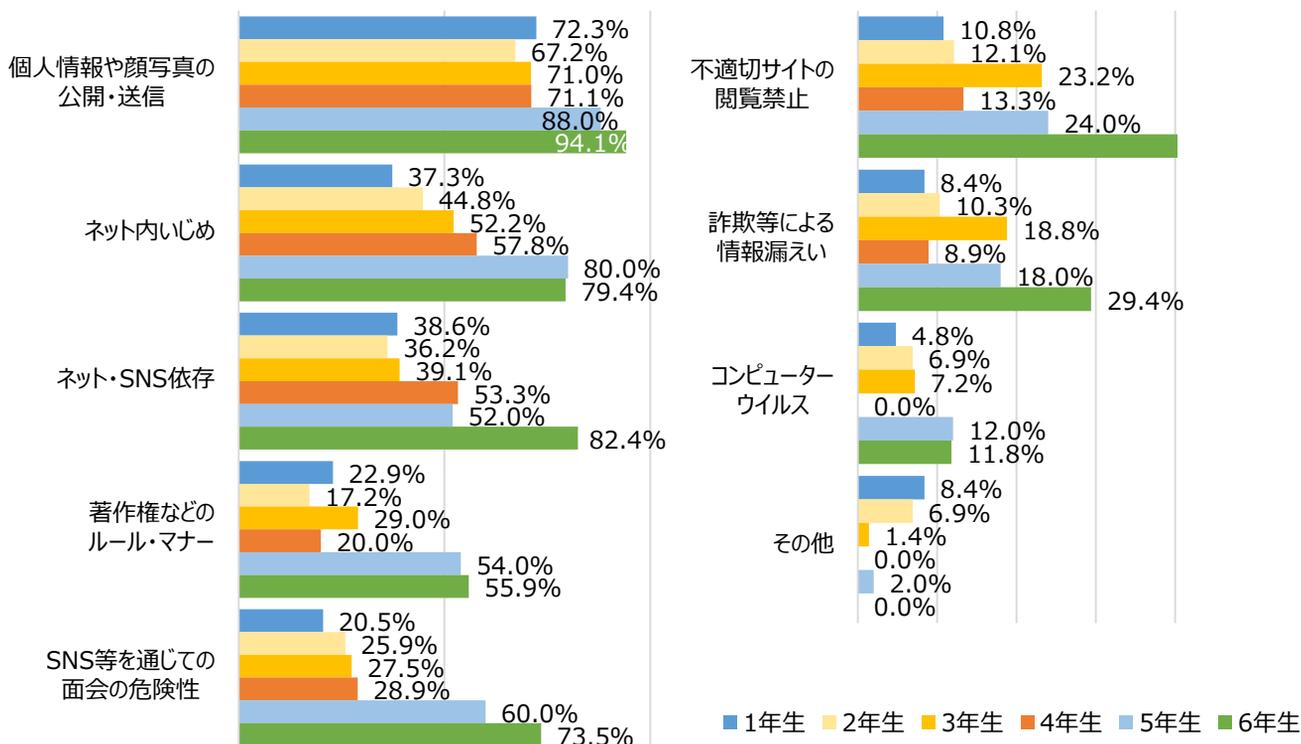


「個人情報や顔写真の公開」や「ネット内いじめ」など 「情報を発信する立場」としての注意点について指導するクラスが多い

担当クラスでインターネットのリスクについて指導を行なっているという先生に、どのような内容の指導をしているのかを聞いたところ、「個人情報や顔写真の公開・送信」という回答が最も多くなりました。全般的に、「情報を受信・閲覧するとき」に比べ、「情報を発信するとき」の注意点について指導を行なっているクラスのほうが多い傾向が見て取れます。

Q.どんな内容を指導しましたか？

(複数回答 回答者数：1年生83人、2年生58人、3年生69人、4年生45人、5年生50人、6年生34人)



ALSOKからのアドバイス

インターネットの世界は進展が早く、大人でもその変化についていくのは容易ではありません。まして子供は、インターネットを介したサービスの詳細な仕組みや、様々なところに潜む罠、メディアとしての影響力の大きさなどを知らずに利用している恐れがありますので、特に注意が必要です。

子供にひとりでインターネットを利用させる際には、**必ずフィルタリングなどの安全策を講じる**とともに、次の3点についてしっかりと話し合ったうえで利用させるようにしましょう。

- ・**教える**：インターネットに潜むリスクや守るべきマナーについて教え、十分に理解させる
- ・**約束する**：利用時間・利用方法など、家庭内でのルールを決めておく
- ・**確認する**：ルールが守られているか定期的に確認し、子供の成長に応じてルール変更を検討する

インターネット上でのトラブル経験のある児童は、高学年で約30人に1人

担当しているクラスにいるインターネット上でのトラブル経験のある児童数を聞いたところ、全学年でおよそ115人に1人の割合でいることが分かりました。学年が上がるほど割合は高くなり、高学年では約30人に1人の児童がトラブルを経験していることが分かりました。

インターネット上でトラブルに遭ったことのある児童

<全学年> **56人** / 6,408人 = **115人に1人** (全体の約0.9%)

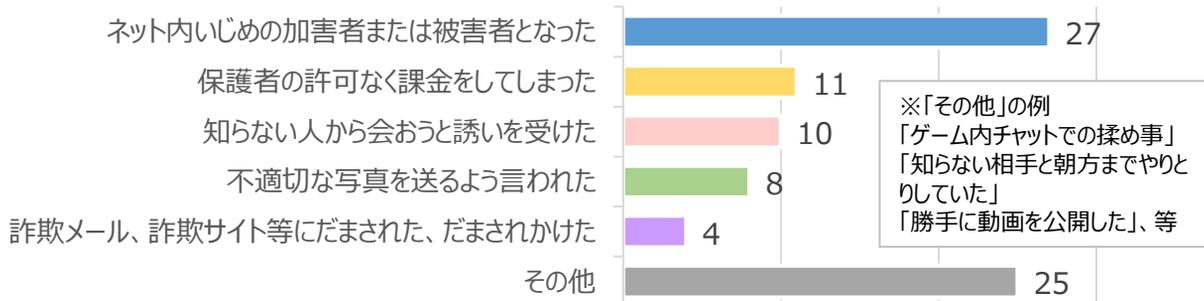


※「Q. 現在担当しているクラスに、過去にインターネットでトラブルに遭ったことのある児童は何人いますか？ (有効回答教員数：252名 担当児童総数：6,408名)」の結果を基に算出。

トラブルの内訳を下グラフに表しています。最も多かったのが「ネット内いじめの加害者または被害者となった」というトラブルでした。そのほか、「勝手な課金」、「知らない人からの面会の誘い」、「不適切な画像（自画撮り等）の要求」といったトラブルを経験した児童も確認できました。

Q.それはどのようなトラブルでしたか。

(複数回答)



休校期間中は子供のインターネット犯罪被害やトラブルが増加

ユニセフ (= 国連児童基金) の報告によると、新型コロナウイルス感染拡大に伴い世界の子供の約90%が学校に通えない状況が続いており、インターネットに触れる時間が長くなっていることでネット上の犯罪などに巻き込まれるリスクが高まっているとのこと。

実際に海外では、ネット上でのいじめの報告件数が前年比で約2割程度増加し、わいせつな画像や動画が流されるなど性的な被害に遭うケースも増加傾向にあるという報道も見られています。

一般的に、「周囲から見えにくい場所」、「怪しまれることなく入りやすい場所」は、犯罪発生リスクの高い場所と言えます。**通信機器さえあれば誰でもアクセスできるインターネット空間は、悪意を持った者が誰からも怪しまれずに標的を物色できるうえ、画面の中で危険なことが進展していても保護者から見えにくいなど、犯罪が起こりやすい要素が揃う場所**であるといえます。

子供のリスクを回避するためには、**子供の利用状況に注視し「よく見える」ようにしておくこと、フィルタリングを活用するなどして危険な情報のある場所に「入らせない」ようにすることが大切**です。

【参考】出前授業「ALSOKあんしん教室」でのインターネット教育について

ALSOKが2004年から社会貢献活動として取り組んでいる小学生向け出前授業「ALSOKあんしん教室」は、警備会社としての社会的責任を果たすため、守りのプロである当社社員を講師として派遣しており、これまでに延べ約5万回、約150万人を超える児童を対象に授業を行なってまいりました（2019年6月末時点）。また、2019年1月より、インターネットリテラシーがまだ十分に身に付いていない小学生が犯罪やトラブルに巻き込まれるのを防ぐための授業を行っています。

授業では、情報発信時に留意すべき5つのポイントをまとめた覚え言葉「か・き・く・け・こ」と、情報受信時に警戒すべきメールやメッセージの6つの特徴を表した覚え言葉「あ・く・ま・が・で・た」を紹介しています。

情報を発信するときに確認する5つのポイント

書き込む前に、「か・き・く・け・こ」を確認しよう

か、き、く、け、こ、
…送信!



- か** 顔がはっきりうつっていないか
悪意を持った人に狙われるきっかけになる。また、肖像を勝手に使用されるリスクがある。
- き** 禁止されていることではないか
著作権、肖像権等のルールについて知り、違反しないよう注意する。親と交わした約束を破るのもいけない。
- く** 暮らしている場所が知られてしまわないか
住所はもちろん、自分の生活圏が知られてしまう情報を載せない。写真に写りこんだ背景にも注意。
- け** ケータイ番号など連絡先を教えても大丈夫か
自分の連絡先を知らない人に教えたり、公開してはいけない。これらを騙し取ろうとする罠もあるので注意。
- こ** 困らせたり、迷惑がかかったりしないか
書き込むことで、誰かを困らせたり、迷惑がかかってしまわないかよく考える。場合によっては炎上などのトラブルに発展する危険もある。

知らない人からのこんなメッセージ（メール）は要注意！

「あ・く・ま・が・で・た」ときは、相手にしないで、おうちの人に相談しよう



- あ** 会おうとってきた
インターネット上で知り合った人と子供だけで会うことはとても危険。犯罪やトラブルにつながりやすい。
- く** クリックさせようとしてきた
メッセージ内のURLや添付ファイルには、有害なものもある。安易にクリック（タップ）するのは危険。
- ま** 回すようにってきた
チェーンメールなどは友達に回さない。悪質なURLやファイルが含まれていたら、自分が加害者になってしまう。
- が** 画像を送るようにってきた
顔写真だけでなく、下着姿などを送信させられてしまう被害も。画像が他人の手に渡ると二度と消せなくなる。
- で** 電話やメールをさせようとしてきた
代金支払い請求や、間違いメールを装った詐欺もあるので注意。連絡すると自分の連絡先が知られてしまう。
- た** タダであげるとってきた
うまい話で興味を引き、個人情報や騙し取ったりトラブルに巻き込まれようとする罠に気をつける。